

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390300085		
法人名	社会福祉法人 典人会		
事業所名	グループホーム「後ノ入」		
所在地	大船渡市赤崎町字後ノ入73番地3		
自己評価作成日	平成29年1月25日	評価結果市町村受理日	平成29年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0390300085-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成29年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム「後ノ入」は理念を「大樹を育む」と掲げ、地域に根差した事業所を目指している。震災後に築き上げた地域との関係性を更に発展させ、グループホームだけで入居者をケアするのではなく、地域からも交流行事等で支援を頂き、その方が住み慣れた環境を継続できるよう支援している。また、これからの次代を担う子供達との交流行事は毎月開催し、地域のお年寄りや入居者様がこれまで培った知識を継承させていく場としても機能するよう取り組んでいる。
ホーム内の生活はケア理念「目線を合わせ、耳を傾け、思いを伝え合う」を重視し、入居している方々が安心安全に暮らせるようスタッフ全員で取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所開設直前に発生した東日本大震災津波で、事業所の建物が地域の避難所として活用されたことから、地域住民との関係性が強く構築されており、関係をさらに濃いものとするために、現在も意識的に事業所と地域のそれぞれの行事などで交流が続けられている。地域交流スペースでの会合や、運営推進会議での意見交換などで、積極的な交流実績を上げている。法人の専務理事や管理者が、職員との対話機会を多く設けることに努めており、職員間の融和が保たれた環境が形成されている状況で利用者に接していることから、利用者の穏やかな生活と笑顔の表情に繋がっているものと感じられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を「大樹を育む」と掲げ、地域活動に力を入れている。また、ケア理念として「目線をあわせ、耳を傾け、思いを伝え合う」を掲げ、その方が今何を望んでいるのかを把握し、ケアに反映させられるよう努力している。	事業所開設時に、併設の小規模多機能事業所と同じ理念を掲げたが、2年前に独自のケア理念を策定し、玄関や共用空間に掲示している。日々の唱和はしていないものの、利用者のアセスメント時に理念と併せて振り返りをしており、職員に浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	震災後に築き上げた関係性を発展させ、これまで様々な活動を行って来ました。特に高齢化する地域をマイナスに捉えるのではなく、一つの貴重な資源として、知識や経験などを子ども達に伝える活動に力を入れています。	開設直前に東日本大震災が発生し、他事業所の利用者や近隣住民の避難所として活用された経緯から、事業所と地域住民との自然なつきあいがスタートした。別棟の地域交流スペースで、多様な年齢層の住民と日常的に交流する機会も多く、地域に根差した事業所となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前項で記載したとおり、地域を盛り上げる為地域のお年寄りを講師に招き、お年寄りの必要性を再確認し、それによって地域が盛り上がるよう支援しています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中では、毎月の活動だけでなく併設する小規模の外部評価等にも参加して頂くことで、地域で運営しているという実感を持っていただくよう気をつけています。地域からの意見はなるべく反映し、一つ一つの助言にも真摯に対応しています。	公民館長・老人クラブ・民生委員・婦人部を含む多くの地域住民が委員となり、併設の小規模多機能事業所と合同で年6回開催している。消防団や駐在所などの話題提供者を招き、地域住民と一体的な事業所として運営が推進されるよう、有意義な会議を目指している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の参加や、日頃から相談できる距離感を保ち、分からないことがあれば気軽に相談できる関係性にあります。	震災復興対応等のため、運営推進会議以外では担当者訪問の機会がないものの、事業所が平成27年10月に津波対応の福祉避難所に指定され、敷地内に地域住民のための備蓄倉庫が設置されたこともあり、日ごろの連携に支障はない状況にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として身体拘束は行わないことを徹底し、身体拘束に関する研修会や委員会の設立も行っています。身体に係ることだけでなく、スピーチロック等についても皆で気をつけあっています。	開設時から現在まで、身体拘束を必要とする利用者はいない。ベッドからの転落予防のため、ベッドセンサーを設置している居室が4室ある。スピーチロックについては、職員の意識づけが大事と捉え、ミーティングで確認しながら、日々のケアを実践している。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム「後ノ入」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア理念のそもそもの由来がお年寄りの尊厳の為構築したもので、虐待は絶対に行わないことをスタッフ全員で守っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	お一人の方が日常生活自立支援事業を利用しており、利用者が置かれる環境に伴って支援方法が変わる事は研修等で学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用される際に説明では、契約書や重要事項説明書をしっかりと説明し、お問い合わせにもその都度対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が来所された際には、グループホームでの様子の報告や相談などを行い、プランに反映させています。しかし1年に数回しかこれられないご家族に対しては中々会うことができない為、以前に行っていたアンケートなどを検討しています。	通院は、家族対応を基本としているため、事業所訪問時に意見交換する機会としても活用されている。家族からの要望を受け、口腔体操を導入したり、外出機会を増やしたりなど、ケアプランに反映させた例がある。今後は、意見箱を設置するなど考慮したい意向である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一人ひとりの利用者にはそれぞれ担当者が付き、その肩の情報収集やケア方法についてミーティングで話し合い反映させています。	職員と管理者が日常的に対話するほか、法人の専務理事が事業所を訪問することが多く、職員との対話機会が設けられている。職員会議(毎月2時間)で、浴室の手すり設置やターンチェアの導入など、利用者ケアの改善意見が出され実施した例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人材不足という厳しい中ではありますが、厳しいが故に環境については考えています。少ないスタッフでも伸び伸びとケアにあたるよう配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については参加希望をその都度取り、出来るだけ参加できるよう配慮しています。また、管理者と半年に一度面談する時間を確保し、目標の設定や反省などを共有しステップアップ出来る様取り組んでいます。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム「後ノ入」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修はもちろん、同じ法人内で交換研修を行い関係性を広げるための活動も行っています。仲間を増やすことでささえあえるかんきょうをつくれるよう		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始にあたっては、本人だけでなくご家族からお話を伺い、ケアプランに反映させています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申込の段階からご自宅での様子やご家族の希望などを聞き取り、利用開始時に安心してグループホームに入ることが出来るように配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用申込では、併設事業所の小規模なども活用し入居前の段階から柔軟なサービスを提供しながら、ご自宅での様子をしっかりと把握し利用に繋げるなど工夫しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とスタッフという立場ではなく、家族として毎日を過ごすよう関係作りにはより力を入れています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診は極力ご家族にお願いしており、毎月一度は顔を合わせる機会を作っています。また、行事ではご家族にもお誘いし、一緒に楽しめるよう配慮しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は常に受け付けており、気軽に尋ねられる環境を整えています。	東日本大震災の津波被害により、馴染みの場の風景が失われた利用者が多いが、馴染みの人（職場の同僚・学校の友人・その地域の知人）との関係が継続されている。地域交流スペースなどでの交流機会も多く、近隣住民との新しい馴染みも形成されてきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の皆さんが会話する際は、スタッフが間に入り、楽しい雰囲気でも話せるよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了したご家族にも年賀状のやり取りや、近況についてお手紙を出すこともあり、遊びに来てくれるかたもおります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成にあたっては、アセスメントをしっかりととりながら行っています。意思疎通の出来ない方については、これまでの生活や、ご家族の意見を聞きながら作成しています。	職員は担当制としているが、それにこだわることなく、全職員がすべての利用者に寄り添いながら接し、思いや意向の把握に努めている。利用者職員が1対1となる入浴時に発話機会が多くなることから、自然な会話を心がけながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を重視し、ホームの生活に合わせるどころ、本人の生活を重視するのところが明確にし、共同生活と本人の生活が両立するように配慮しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当者がアセスメントをしっかりと取り、残存能力の発揮などケアプランに盛り込んでいます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のミーティングではケースカンファレンスやモニタリングを行い、スタッフ一人ひとりの意見を反映させて作っています。	職員全員参加による職員会議において、担当職員の意見や家族の要望等を交えて作成されたモニタリング(1~2か月)の確認を経て、3か月ごとの介護計画策定を行い、家族の了解のもとに利用者のケアを実施している。気づきノートや連絡ノートも活用されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングの中ではない日の暮らしのケアの中での変化や、状況に応じて対応出来るよう意見交換をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケア理念にあるように、なによりも本人の気持ちを尊重して過ごして頂けるよう配慮しています。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム「後ノ入」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流行事やボランティアを活用し、関係性の継続や、本人の能力発揮の場として企画しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医についてはホームに入居しても、継続して診察を続ける事が出来ます。病院に通うことで友達に会ったりすることもあります。ホームはそれぞれの医師と連絡を密にし、変更に応じて指示がもらえる環境を作れるよう配慮しています。	通院は、家族対応を基本としているが、利用者の症状により、職員が同行することもある。車いす使用の利用者の送迎は事業所が行っている。通院時には、1ヶ月のバイタル情報と、最近の様子を記入した用紙を医療機関に提供しており、かかりつけ医との情報共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご家族が受診する際にも、ホームでの生活の様子をまとめたものを提出し、日常の生活も理解していただけるよう配慮しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には連絡密に取り合い、お見舞いはもちろん、退院調整等もスムーズに進められるよう連携しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りにあたっては指針を策定し、契約の際から伝えております。さらにそういった時期に至った際は再度ご家族の意向を聞き取り、その意向に沿ったケアが出来るよう備えております。	「利用者の重度化及び看取り介護に関する指針」を策定し、重度化や終末期に向けた努力をしているものの、訪問診療医や夜間対応が可能な医師の協力を得られる状況にないことから、ぎりぎりまでは事業所に対応するが、それ以降は医療機関に入院するという実情にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命については毎年研修会を行い、万が一に備えております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年行なわれる訓練では、火災だけでなく、津波や水害にも速やかに避難出来る様、事業所だけでなく、地域や法人と連携しています。	消防法に定める2回の訓練に加え、津波想定 of 住民受入れ訓練も実施し、津波発生時の福祉避難所指定に対応できるようにしている。地域住民とともに、備蓄倉庫の管理をしているが、公民館組織の地域協力体制に事業所が加わることを目指し調整を続けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケア理念に沿って尊厳や人格を尊重して対応しています。	利用者が従前から呼ばれていた呼び名を事業所でも使用している。入浴やトイレの介助は、拒否がある利用者の場合は同性介助としている。トイレ失敗時は、トイレ内処理としており、他の利用者に気づかれることのないようプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の暮らしの中では、選択肢を持たせ状況に応じた対応をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	重度化するグループホームの中では、出来るだけ張りのある毎日を送っていただけるよう配慮しています。お茶の時間には日付確認等のリアリティーオリエンテーションも行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容では、スタッフが行うのではなく鏡の前に立ち自分の姿を確認しながら行える様支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみの一つなので、美味しい料理はもちろん、昔を懐かしんでいただく為屋外に設置したかまどでご飯を炊いたりして工夫しています。	冷蔵庫などの在庫を見ながら献立を考える方式としている。食材の買い出しや調理の一部に、利用者が参加することもあるが、現在は食器拭きが主な参加形態となっている。職員は、希望により利用者と同じものを喫食可能で、法人が食費の半額を補助している。畑の収穫物を活用することも多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の栄養バランスはもちろん、普通食では難しい人に対しても食事を楽しんでもらえるよう、ソフト食も活用しています。水分にも気を使い、体調の管理に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアに加え、食事の前にも口腔体操を行いスムーズな嚥下につながる様支援しています。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム「後ノ入」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄については尊厳を守りながら、その肩の状況に応じて対応しています。また、排泄パターンを把握することでリハビリパンツから布パンツへ移行した方もいます。	おむつ使用の利用者や布パンツの利用者もいるが、ほとんどはリハビリパンツにパット使用という状況にある。適切な声がけと見守りをする事で、排泄の失敗が少なくなるように留意している。失敗時は、他の利用者の目に触れないよう、トイレ内処理としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医から処方されている下剤に頼るのではなく、食生活においても乳製品を取り入れて対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	重度化に伴い一度に大勢の方を入浴させる事はできなくなりましたが、スタッフとの1対1の時間が増えることで、ゆっくりと会話を楽しみながら対応しています。また、入浴されない方は足浴で対応し清潔保持に努めています。	毎日の午前中を入浴時間帯とし、1日置きに入浴できるよう配慮している。入浴日以外の利用者は、足浴対応としている。入浴拒否がみられる場合は、順番や職員を交代させたり、翌日に回したりするなど工夫している。1対1で職員と対話できる貴重な時間と捉えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の暮らしの中では中々眠れないこともあります。そんな時には無理に眠るのではなく、スタッフと会話をして過ごしたり、個人のペースを重視して対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての研修会へ参加したり、医師との連携の中で薬の使用目的や効果、副作用について把握できるよう共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	重度化したから動かないではなく、出来る事は減っても少しでも家事に参加していただけるようお誘いしています。また、季節に応じたバスハイク等も企画し楽しんでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠くに出かけるだけでなく、現在作成中のお庭へ出たり、畑に出かけることで外の空気を吸って季節感が感じられるよう配慮しています。	冬季を除き、日光浴や外気浴のため、事業所周辺を散歩したり、庭や畑で作業をすることを心がけている。学童クラブの児童らと一緒に、野菜を育てたり、草取りをしたりと交流を楽しんでいる。収穫物は、事業所の食材となり、食事の際の話題としても活用されている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム「後ノ入」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在金銭管理している方はおりませんが、本人の希望がある方については対応したいと考えています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には面会が主なので、年賀状等で対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では温度や湿度だけでなく、緑を配置したり日光の量を調整したり、気持ちよく過ごせる環境を目指して支援しています。	開放的な高い天井と、木目調の壁が落ち着いた雰囲気を醸し出していて、利用者は、ほとんどの時間をリビングで過ごしている。事務室経由で隣接の小規模多機能事業所を訪問する利用者の姿もあった。床暖房とエアコンの快適な環境で、和室にはコタツも置かれている。時節柄、内裏雑が飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングだけでなく、施設の奥にあるサンルームや居室を活用し家族とのゆっくりとした時間の支援や、独りになりたい時になれるよう配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	被災された方もいて自宅から家具を持ち込めなかった方については、備え付けのクローゼットやタンスを活用しています。また、必要に応じて家具も購入し、安心して過ごせる居室になるよう支援しています。	ベッド・クローゼット・タンス・エアコン・換気扇を備えた居室となっている。東日本大震災で被災した利用者が多いため、衣類以外の持ち込み品はあまり多くないが、壁面に写真や作品などを飾っている。位牌を持ち込んでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの配置や表札の配置など安全安心に過ごせるよう配慮しています。		